

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291100277		
法人名	株式会社ほっとステーション		
事業所名	グループホームきずなHANARE		
所在地	千葉県木更津市下郡984-2		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念にもある「主役は利用者様である」を強く意識し、それぞれが自分らしい生活が出来るよう職員は黒子となりサポートする。また、そのなかで得る「有意義な時間」「自分にとって良い時間」の獲得を目指している。
医療面では提携医療機関の月2回の往診、併設デイサービスには看護師が常駐している。
当事業所ではご家族が気軽に遊びに来れるアットホームで暖かい施設づくり目指しております。今までコロナ禍で出来なかった外出、自宅への外出外泊など、今まで当たり前だった事が少しづつでも実現出来ればと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

しっかりとしたプロセスに基づいた支援に努めている。介護計画書、課題整理総括表やケアチェック表を基にして、各利用者の評価表やモニタリング記録に、目標、援助内容やその結果を丁寧に記載している。日常の気づきシートやカンファレンスを通じて、利用者の様子や情報を職員同士で共有し、支援の改善に努めている。「利用者が主役」で「居心地の良い居場所を作る」という理念のもと、食材の下ごしらえ、洗濯物たたみなど利用者ができることをしてもらい、自宅の離れ(HANARE)にいるように過ごしてもらうことを目指している。無理強いをせず、本人がしたい事を見つけ、利用者が笑顔で生活できるような支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士コミュニケーションを取りながら常に理念の共有し、実践をしている。	経営理念を事務室や職員休憩室に掲示し、日々の職員との会話や、毎月のカンファレンスで、利用者の笑顔が見られる支援をおこなっているかという視点を確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設に来る週に1回の移動販売車にも積極的に出られ、地域住人との会話など楽しまれている。	コロナ禍で積極的な交流は出来ないが、隣接の系列施設の駐車場に移動販売車が来る時に、利用者に声をかけて物品を購入したり、買い物に来る地域住民と挨拶をするなど、日常的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により事業所としては地域貢献の難しさを感じている。前管理者(経営母体取締役)が地域の街づくり協議会理事として定期的に会議に出席し意見交換など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により現在は資料での報告開催となっている。資料には質問受け付け用紙を添え、質問がある場合は電話やFAXで受付している。	コロナ禍の現在は書面による開催となっており、報告が主体となっている。報告書は質問受付用紙と一緒に市担当課、地域包括支援センター、町づくり協議会会長、全家族に配布をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各課担当者、地域包括など関わりも多く、連絡は密に取れている。	オープン前から市担当者と密接に連絡を取り合っており、アドバイスを受けながら開設にこぎつけているので、連携はとれている。最近では、市からコロナの感染状況やワクチン注射などの情報をメールで入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての指針などの読み合わせ、意見交換を行なっている。また、推進会議にて報告している。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、指針の内容を確認し合っており、議事録を全職員に回覧して周知をしている。また、その内容を運営推進会議で毎回報告をしており、適正化に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスなどにより定期的に意見交換している。対応について気になるところは情報共有し防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様の入所により、改めて制度について学ぶ機会が増え、制度の理解が出来てきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時やお電話の際に日々の生活の様子をお伝えし、意見・要望がある時には、反映出来るように努めている。	日常的なコミュニケーションで利用者の要望を把握している。また利用料を家族が持参することがあり、その時に利用者の様子やカンファレンスで出た内容を伝えており、家族からの要望や意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの共有、月末のカンファレンスにて職員同士で意見交換し反映させるように努めている。	施設長や管理者は職員と接する機会が多く、率直な意見のやり取りや何でも話ができる関係性は出来ている。目線や考え方も共有しており、提案なども運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位に関わらず誰もが意見を言える環境づくりを心がけている。キャリアアップ時の昇給制度など、努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修・国家試験など、キャリアアップに繋がる費用は全額会社負担を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為、引き続き交流自粛している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにより本人の困っていることや不安なことを聞き取り、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時・契約時にご家族の不安なことなど、お聞きしてサービスに反映させている。また、入所前より連絡は密に取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族、居宅ケアマネ等から情報収集を行ない「その時」何を必要としているか、どのような支援が必要かを知り対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役は利用者様であることを強く意識し、ご本人の意を尊重したケアを心がけている。調理方法を教えて頂いたり、掃除洗濯等、協力して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時、遠方のご家族様には月に1度以上電話で近況報告をしている。また、月に1度、HANARE便りを発行し、日々の様子などを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大防止の為、アクリル板を挟み、出来る限り短時間の面会など引き続き御協力頂き行なっている。	隣接するデイサービスセンターの利用者や家族と玄関先で面会できるように支援したり、ホームの電話で知人に連絡する、年賀状を書く支援などで、これまでの関係性が途切れないように努めている。	コロナ禍が落ち着いた際には、これまでできなかった自宅への外出外泊の他に、家族の宿泊や食事なども企図しており、実現が待たれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動・ホーム行事で交流する機会がある。合同でTV体操をする時間を設け、関わり合いを持てる環境づくりに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設デイサービスに移動された利用者様本人とも定期的にデイサービスを訪れ交流を持っている。また、ご家族とも連絡取り合える関係づくりが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む生活、意向は介護計画の更新の度、ご家族ご本人より聞き取り、アセスメントして把握に努めている。	日常生活のなかで、笑顔が見られることが本人が望む生活と、職員間で共有している。洗濯物たたみや、お米を洗ったり、野菜を切る姿を家族が見て、利用者のできることがまだあることを喜ぶ様子が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、居宅ケアマネ等からの情報収集に努め、これまでの生活歴を考慮し、本人の意思を尊重したケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の強みに着目して、その方の出来る力を発揮出来る、やろうという意欲を大切にケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族と面談し、本人が自分らしく暮らせる為の課題を導き出し、介護計画を作成・担当者会議を行っている。また、毎月カンファレンスにてモニタリングを行い介護計画に役立てている。	介護計画作成のための担当者会議を毎月おこなっている。課題を見つけ出し、管理者、ケアマネジャー、担当する職員などで確認して、現状に即した計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録、業務日誌、夜勤日誌を記録している。その他、排泄・通院・体重・きずきシートなど活用し、情報共有しながらサービス内容の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会、外出は控えている。必要時の面会では、ご家族が気軽に来所出来る雰囲気づくりに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外出は控えている。地元ドラッグストアの移動販売をお願いして、敷地内で週1回の買い物を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との連携があり、月2回の往診による健康管理をしている。職員送迎にて外来受診も対応している。	毎月2回、提携医が往診して健康管理をしている。専門医の受診が必要な場合は、往診時の医師の判断で受診できるようにしている。家族が専門医の受診を希望する場合も対応しており、家族が同行出来ない場合は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイサービス常駐看護師に情報提供し、対応方法の指示を受ける体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関との正確迅速な情報提供出来るよう、医療情報提供シートに記してある。退院説明などにも職員が同行する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し、終末期には提携医療機関医師より、ご家族に看取りの説明を行い同意書を交わす。	重度化対応(看取り介護)に関する指針があり、入居契約時に説明している。重度化、看取り期には、医師が個別に家族に説明して同意書を作成するように備えている。職員は家族に寄り添い、不安を軽減するような支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関との連絡連携体制・併設デイサービス看護師による急変時の対処を事前に確認し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え年1回の避難訓練を実施している。訓練時には木更津市危機管理課への報告をし、連絡体制を整えている。	2019年の台風被害で2週間の停電の経験があり、ハザードマップで自施設の状況を把握して、年2回の避難訓練は、外に出る避難、施設内にとどまる避難を想定しておこなっている。発電機の準備もあり、備蓄食料、備品なども揃えている。	備蓄食料、備品は、一覧表を作成して消費期限の確認、備品の稼働確認をおこなうことを検討してもよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話をさせて頂いているとの精神で一人一人の人格を尊重し、その方の性格等把握し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	利用者は人生の先輩であると考え、常に謙虚な気持ちでケアにあたるよう心がけている。本人の気持ちを尊重し、名前を呼ぶ時には本人が希望する呼び方にしている。排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮しており、入浴も希望に応じて同性介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を伺っている。利用者様が気兼ねなく希望や想いを発言出来るよう働きかけ、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の体調・気分を把握し、ご本人の希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、本人の好む服装や昔を思い出して頂き、どんな服が好きだったか話題にしながら選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて皆さんの好みなど話題にしながら一緒に調理出来るように、取り組んでいる。	食材の購入は利用者と一緒に出掛け、季節の食材と一緒に調理して食事をすることを考えているが、現在は感染予防のため出来ない。訪問時には、エプロンをした利用者が、ホットプレートであんかけ焼きそばを調理している姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量を一日通して確保し、記録している。結果に合わせて献立の変更などもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄出来る方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立を目指して介助しており、排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。日中は布パンツにパットで過ごしている利用者が複数いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や乳製品の提供と水分チェックを行っている。また、腹部マッサージや服薬管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いはないが、清潔保持の為、最低週2回を目安に入浴を勧めている。また、入浴剤や柚子湯など、季節にあわせた香りなどで、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	入浴は週2回以上を目標にしているが、入浴をしたくないという利用者には無理強いしないで、タイミングを見ながら声掛けしたり、時間帯を夜にするなどの対応をしている。ゆず湯など季節感も大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼夜逆転や生活リズムが狂わない程度のお昼寝を行っている。 夜間は室温・夜湿・気乾燥には気をつけ気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表で常時確認出来る体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の掃除機がけ、テーブル拭き、その他家事など、出来る方にはお願いをして手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、引き続き外出は控えているが、職員と一緒に近所のお散歩などで頂いている。	隣接のデイサービスに移動スーパーが来る時に、散歩も兼ねて出かけ、地域住民とも交流する機会になっている。コロナ禍に目途がついたら、少し遠方にも出かけ、買い物や食事を楽しむことを計画している。現在はホームの庭で日光浴したり、近隣を歩いている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭所持はトラブル防止の為、ご遠慮をお願いしている。預り金は事務所金庫にて保管し、その都度お渡ししている。週1回の移動販売車にてご自分で選びお買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には本人と代わりお話しして頂いたり、希望があれば施設より電話をかけご家族の声を聞いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気・消臭剤の設置で工夫している。季節感を忘れないように季節のカレンダーや、季節にあった飾りなど工夫している。	利用者と一緒に作成したカレンダーを飾っている。また、クリスマスツリーなどで、季節を感じられるようにしている。感染予防のため24時間換気をおこない、手指消毒を励行している。日当たりがよく明るいリビングには、ソファで寛いでいる利用者も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がご自分で落ち着ける場所を選び座られる。また、利用者様の状態や他の利用者様に配慮し、誘導もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物を持参していただき、レイアウトも本人ご家族にお任せしている。就寝時の室温調整にも心がけている。	自宅で過ごしているような環境にするため、本人と家族で室内のレイアウトが出来るようにしている。使い慣れた家具、時計、思い出の写真などを置いて、それぞれが寛げる居室にしている。室温の調整は職員がおこなって、快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレマーク、居室には氏名プレートを、利用者様の目線に合わせ貼る。 ※腰の曲がった利用者様には低い位置など		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと